

TRAIL RUN

トレイルランニングをこよなく愛する人たちに贈るディープな情報

163回

APRIL

トレイル通信

文/吉本 亮



どこからでも右を向けば、名峰・富士山が見放題！

特別企画⑤

トレイルレース今昔物語

2012年 第1回UTMF 〜世界基準の大会が日本で、

現在のトレイルレースの頂点はUTMB(ウルトラトレイル・デュ・モンブラン)。それに準じたレースが日本で開催される!? 富士山を回るの? 開催可能なの? そんな噂が駆け巡り、1年の延期を経て開催されたのが、UTMF(ウルトラトレイル・マウントフジ)でした。その第1回を振り返ります。

完走に向けた作戦

第1回UTMFは、2011年2月8日、午前10時に申し込みが開始されました。私は別府大分毎日マラソン出場のため、飛行機で現地入り後に申し込みもと考えていましたが、10時到着予定が5分延着し、その時点で申し込みサイトは1400人待ち! 何とか申し込みはしたものの、東日本大震災で延期となり、1年後の12年、優先エントリーでの参加となりました。

5月18日、会場となる山梨県の富士河口湖町には、定刻通りにバ

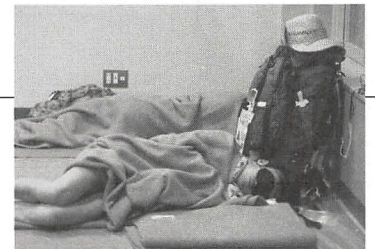
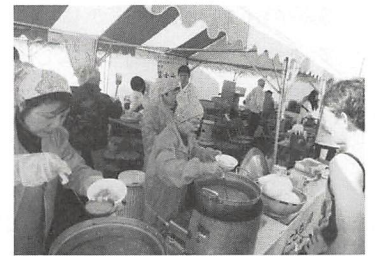
スで到着。会場には豪華なエキスポがありました。私は装備チェックを済ませた後、静かな場所です。寝だめ。スタートまで3時間、誰かと立ち話をするだけで体力を消耗しそうだし、走りながら話したほうが距離を忘れて走れるからです。

実行委員長の鋪木毅さんや、UTMBの責任者であるカトリクス・ポレットイさんが見守るなか、大池公園をスタート。100マイル(約168・6km)という長距離への不安よりも、足掛け2年ですとスタートを切れたうれしさから、皆、笑顔での出発です。

私は完走に向けて、明るいうちにオーバーペースで宿泊地に向かい、夜はしっかりと寝る作戦にしました。モチベーションは、次のエイドの食べ物。いつもぶら下げている高低図に、エイドのメニューも書き込んでいます。午後3時スタートなので、すぐに暗くなりました。

寝る気満々で走る!?

「二十曲峠」のエイドでは、そ



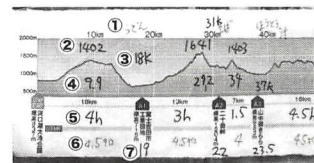
を食べられる予定でしたが、在庫切れのためパンを補食。次の山中湖きららエイドではフジマリ果汁でしたが、食が進まなかったのでお菓子を食べて進みます。

そして、午前0時半に、「すばしり」に到着。仮眠所も用意してあるので、キノコ汁をいただいですぐに寝るエリアに向かい、就寝毛布が用意されていたので快適でしたが、2時間寝て起きたら人がいっぱい。騒々しかったので、耳栓とアイパッチを持っていったのは正解でした。

スイーツっぱいの朝

午前2時半に再出発し、寝起きのもうろうとしたなかで舗装路を上っていると、いつしか砂礫のトレイルになっていました。普段は入れない自衛隊の演習場です。夜明け前後なので遠くまでは見通せませんが、広大な砂礫地帯に「無断立入禁止」の看板を見るとドキドキします。

富士山中腹の「太郎坊」の広大な砂礫地帯での、朝日を見ながらの朝食は、まさにブライストレス。



- ①エイドのメニュー
- ②区間ピークの高さ
- ③スタートからの距離
- ④区間ピークの地点
- ⑤区間の制限時間
- ⑥速度
- ⑦関門の制限時刻

(上)地元の人たちがよそで温かい豚汁が、体に染み渡る(中)すばしりエイドの仮眠(下)高低図にエイドのメニューも記入し、モチベーションを維持

デザートも、カフェオレ大福、萬年堂のポー、アンドロワ・パレのムーなどの名品がしのぎを削ります。その後の須山口登山歩道は、それまでの火山の風景とは違い、屋久島のような苔むした空間で、ホッとしました。

不思議な直線トレイル

「こども国」到着は午前7時半。預け荷物が置いてあるので、電池交換や補給食を追加。仮眠用のエリアもあります。疲れ具合や混雑の程度で滞在時間を変えるなど、戦略を練るのも楽しみの一つ。少し眠かったのですが、ここで寝ると難所の天子山塊が夜中になるので、30分でお出しました。

その後、2時間以上続く直線に入りますが、そこは「撮影禁止区域」。何があるんだろうと興味津々

UTMFメモ

★実は激安な大会!?

トレランレースは山奥で開催されることが多いので、現地までの往復や宿泊費も含めて比較したい。現在のUTMFは決済手数料を含めて3万7980円(第1回は2万4200円)で、こだけ見ると高額な部類に入る。しかし、都内から現地への往復がバスで4000円、宿泊費不要、食費込み、参加費Tシャツは質が高く、完走賞はさらに充実。それをひくくると、丸3日間楽しめて約4万2000円は、お得なレースかも。

★UTMFが起こした変化

○コースを正確な地図ではなく「概念図」で発表する○STY(シズオカトヤマナシ)以降、こうした略称が定着○いつもは立入禁止の自衛隊の演習場を走る○携帯トイレが必携品に加えられる○100マイルが身近に



天子山塊の雲守山で休憩中の人たち



天子山塊を進んでいると雲海の上に富士山が見えた

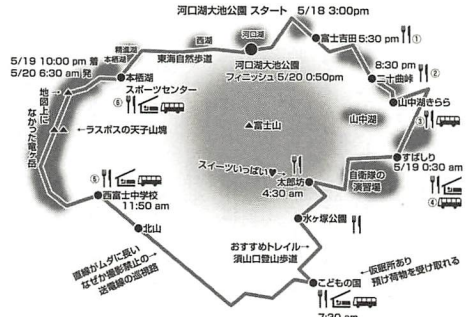


(上)本栖湖スポーツセンターでは足踏みマッサージが大盛況!(下)ゴールへの最後のトレイルは、ゆっくりとハイキングが楽しめた



ゴールでは、実行委員長の鍋木さんが迎えてくれた

第1回 UTMF 思い出の概念図



エイドで食べた食事は?

- ① 富士吉田-富士吉田うどん
- ② 山中湖から-フジマリ果汁
- ③ すばり-きのこと汁
- ④ 水ヶ塚公園-餃子うどん、大あんぱん
- ⑤ 西富士中学校-富士宮やきそば
- ⑥ 本栖湖-鹿カレーとそばめし

睡眠はどれだけ?

- すばり →2時間
- 本栖湖 →6時間

ラスボスの天子山塊へ

そして、ここからが難所・天子山塊です。「100 kmを走った後に、あの山塊はエグイ」といわれるだけに、上り下りで無駄に体力をそがれます。下りも急峻でスラブルと滑るので、尻もちをついたまま滑っていく人もチラホラ。さらに、地図にはない山が出現し、ここで時間切れになった人も多かったです。

「本栖湖エイド」には暗くなる前に到着予定が、夜10時に。鹿カレーが気になっていたので即注文。

でしたが、めばしいものは何もなし。送電線の巡視路なのですが、不思議に直線的なトレイルでした。鉄塔のコンクリートの基礎部分に寝転がり、仮眠をとっている人もいました。

「西富士中学校」の到着は、午前11時50分。富士宮やきそばで有名なエリアなので、焼きそばやおしるこをいただきました。装備と体のチェックを受けて、再出発。

波乱に満ちた!? UTMFミニ二年表

- 2011年5月 「UTAF」として開催を発表。東日本大震災により延期
- 2012年5月 第1回UTMF開催
- 2013年4月 反時計回りとなる。原良和さんが、現時点で唯一の日本人優勝者に
- 2014年4月 世界的レースの1つとなり、海外選手400人。日本人は3位以内に入れず
- 2015年9月 秋開催となり降雨に。完走率は最低の41.5%
- 2016年9月 激しい降雨によりUTMFは短縮。姉妹レースSTYは中止に
- 2017年 環境面・天候面に関して審議・調整中に開催見送りに
- 2018年4月 こどもの国スタート。周回ではなく折り返しコースに
- 2019年4月 STY廃止。天候悪化から途中でコース短縮。そのため距離が違う6種類の完走リザルトが発表された
- 2020年4月 コロナ禍により中止

吉本 亮 よしもと・まこと

2002年に富士登山競走に出るも8合目前で失格。同年の初マラソンは福知山で4時間。1月は三浦半島の関東ふれあいの道へ。波が打ち寄せる海岸で、山の道という固定観念が崩れました。

最後は「寝美」!

最後の東海自然歩道は、眺めの良いハイキングコース。ここまで走ったご褒美として、存分に楽しみました。

仮眠エリアは板張りの上にブルーシートだけでしたが、持参したエアマットで快適に6時間眠り、午前6時半には、余裕をもって退出しました。

最後のUTMBと同じく、コース変更が多かったり物議を醸したりと目が離せないUTMFですが、日本を代表するにふさわしい規模とホスピタリティで、特別なトレランレースになっています。

そして5月20日、午後0時50分、鍋木さんに出迎えられてゴール。ワインを飲んでいる仲間を探し出して祝杯を挙げ、バスで帰宅しました。



多彩なエイドの給食。右上から時計周りに、富士吉田工業団地の富士吉田うどん/太田坊のおしゃれスイーツ/西富士中学校の富士宮やきそば/本栖湖スポーツセンターの鹿カレーと、かっぱめし